

福島県産麦の推進方針（案）

令和3年12月作成
 令和4年11月一部変更
 令和6年2月一部変更
 令和6年12月一部変更
 令和7年12月一部変更
 福島県水田農業産地づくり
 対策等推進会議

近年、国際環境の変化などから日本の食料安全保障リスクが顕在化し、令和6年6月に改正された食料・農業・農村基本法において、輸入依存度の高い小麦などの国内生産能力の確保が重要視されている。需要面では、品種改良により実需者が求める品質を有する品種が増加したことから需要量が伸びており、生産量では、食料・農業・農村基本計画における令和12年までの小麦生産量目標値が137万tに上方修正されるなど、国産麦が注目されている。

福島県産小麦の作付面積は、東日本大震災後に面積が減少したものの、相双地区の大規模経営体を中心に作付けが増加し、令和6年産は震災前の約121%に拡大している。一方で、県産小麦の単収は、令和6年産全国平均444kg/10aに対し、287kg/10aと大きく下回る状況にあることや、検査等級1等比率が全国比で低く、国交付金の交付単価が低くなるなか農業所得にも大きく影響しており、収量・品質の向上が急務となっている。

このことから、生産者の所得向上と安定した生産・供給体制の構築を推進するため、推進方針を定める。

1 基本方針

- (1) 基本技術の励行による収量・品質向上
- (2) 需要に応じた品種の選定と奨励品種種子の安定供給
- (3) スマート農業技術等を活用した生産体制の整備
- (4) 実需者と結びついた産地形成の促進
- (5) 安全安心のための技術対策の徹底
- (6) 土地利用型作物を基幹とした経営体の育成

2 小麦の生産目標

項目	現状 (令和6年)	目標 (令和12年)	【参考 全国】 (令和6年)
作付面積(ha)	551	614	231,800
収量(kg/10a)	287	350	444
生産量(t)	1,580	2,149	1,029,000
検査等級1等比率(%)	29.1	77.0	87.1

3 取組内容

(1) 基本技術の励行による収量・品質向上

ア 基本技術の徹底

①ほ場内明渠による表面排水対策、②心土破碎や弾丸暗渠・穿孔暗渠による透排水対策、③畝立て同時播種等の湿害軽減技術など、ほ場条件により複数の対策を組み合わせ、湿害軽減対策を実施する。また、越冬前の生育量を確保するため、適期播種を徹底する。

イ 適期刈取による低アミロ小麦の防止

粘度が極端に低い低アミロ小麦による品質低下を防止するため、成熟期から5日後までの収穫を徹底する。

(2) 需要に応じた品種の選定と奨励品種種子の安定供給

ア 「さとのそら」は、種子の増産を計画的に進めるとともに、同様の加工適性を有する「きぬあずま」からの転換を推進していく。

イ 「夏黄金」は種子の購入先が少ないことから、県内での種子生産体制を整えるとともに、同様の加工適性を有する「ゆきちから」からの転換を推進していく。

(3) スマート農業技術等を活用した生産体制の整備

産地における規模拡大や品質向上に対応するため、大型機械の導入や乾燥調製施設の整備等による生産体制の構築を図る。

(4) 実需者と結びついた産地形成の促進

需要に応じた品種の作付を進めるため、生産者が新たな品種の栽培特性を早期に把握できるよう、県で取り組む畑作物モデル地区等で実証するとともに、県内加工業者と結びついた産地形成を進めるなど、県産麦を活用した県産品振興による地域全体の産業振興を図る。

(5) 安全安心のための技術対策の徹底

ア 赤かび病防除の徹底

赤かび病原菌が作り出すデオキシニバレノール (DON) 等のかび毒について、技術情報を発行するとともに、航空防除も含め、2回以上の防除実施を徹底する。

イ 放射性物質の検査実施

穀類の緊急時モニタリング検査を各市町村(被災12市町村は、別途区分ごと)で実施し、安全性を確認する。

(6) 土地利用型作物を基幹とした経営体の育成

10a 当たりの労働時間や物財費が水稻より少ない麦栽培の特徴を生かし、生産規模の拡大推進と併せて、水稻や麦等の土地利用型作物を基幹とした経営体を育成するため、JA グループ福島が取り組むチャレンジファームとも連携して、輪作栽培体系の実証に取り組む。

福島県産麦に係る現状と課題及び今後の対応（令和7年12月現在）

1. 現状

(1) 作付面積

R6 作付面積は 582ha（前年比+63ha）で、浜通りで大きく拡大している（表 1）。

(2) 団地面積の推移

R7 団地面積は 380ha（前年比+54ha）で、浜通りでの拡大が顕著である（表 2）。

(3) 品種別作付面積

R7 産品種別では「ゆきちから」が多く、次いで「さとのそら」、「きぬあずま」となっている（表 3）。

(4) 単収の推移

R6 単収は小麦 287kg/10a（前年比+24kg、全国比 65%）と年々増加傾向にあるが、全国平均を大きく下回る。大麦では 255kg/10a（前年比+35kg、全国比 84%）（表 5）。

(5) 農産物検査結果の推移

R6 検査等級 1 等比率は 29%（前年比+14ポイント、全国比-58ポイント）と全国平均を大きく下回る。大麦では 46%（前年比+24ポイント、全国比-16ポイント）（表 6）。

2. 課題

(1) 生産技術

- ・適期播種や適期刈取、水田作における排水対策等の基本技術が徹底されていないことにより、一部産地で単収が低く、十分な所得が確保できない場合がある。
- ・水稻刈取作業と小麦播種作業の時期が競合することにより、水稻刈取作業が優先され、播種適期を逃すことで越冬前の生育量が確保できない場合がある。
- ・生育ステージに応じた追肥作業が不十分で、実需が求める品質や国交付金獲得に必要なタンパク質含有量が不足している。

(2) 需要に応じた品種構成

- ・実需者からの要望がある「さとのそら」は、需要量に対し、生産量が少ないため、作付面積の拡大が必要である。
- ・実需者から要望があり、県奨励品種となった「夏黄金」は、種子供給状況を考慮しながら、用途が似ている「ゆきちから」からの転換が必要である。

3. 今後の対応

- ・適期播種や適期刈取を推進するとともに、降雨等による作業遅延や湿害を軽減できる排水対策等の基本技術を徹底する。
- ・補助事業活用を推進し、スマート農機導入等作業効率の高い生産体制を進める。
- ・栽培暦や研究成果を基に、品種や生育量に応じた追肥時期、追肥量を徹底する。
- ・小麦においては、地域性を考慮しながら、需要に応じた品種構成とするため、「きぬあずま」から「さとのそら」、「ゆきちから」から「夏黄金」への品種転換を推進する。
- ・JA グループ福島によるチャレンジファームにおいて、土地利用型作物の輪作栽培体系を実証する。

(参考資料) 福島県産麦について

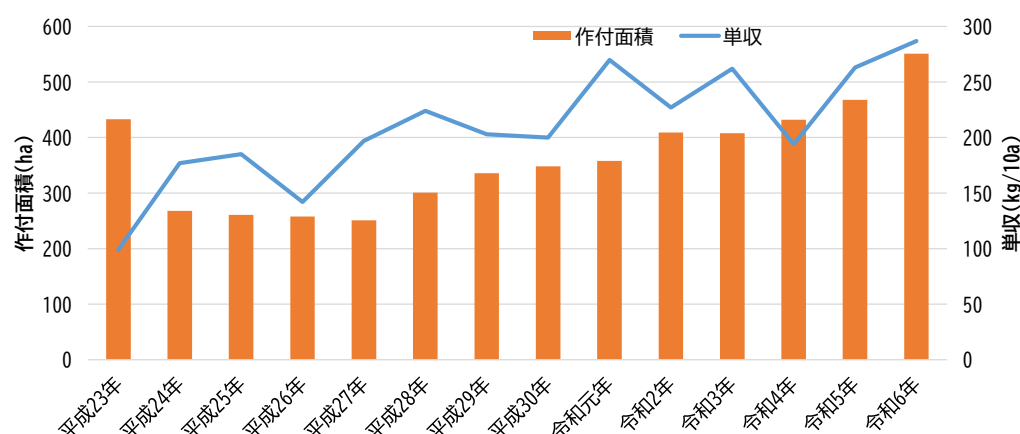


図1 平成23年以降の県産小麦の面積と単収の推移 (農林統計より)

表 1 麦類作付面積の推移 (単位: ha)

麦種	地域	H22 年産	R5 年産	R6 年産	R7 年産※	R8 年産※
小麦	中通り	73	72	82	89	63
	会津	204	143	168	86	82
	浜通り	164	253	301	314	343
	計	441	468	551	488	488
大麦	全域	41	51	31	1	1
合計		482	519	582	489	489

※H22 年産～R6 年産は、農林水産統計値

※R7, R8 年産は JA 全農福島の出荷契約ベースの面積 (R7.7 現在)

表 2 1 ha 以上麦を作付している団地の水田面積 (単位: ha)

地域	H22 年産	R4 年産	R5 年産	R6 年産	R7 年産
中通り	16	7	10	11	14
会津	143	52	84	77	97
浜通り	192	210	247	238	269
計	350	269	342	326	380

※県調べ

表 3 小麦の品種別作付面積 (単位: ha、%)

品種	R7 年産	R8 年産	同左比率(%)
きぬあずま	128	97	20
ゆきちから	226	244	50
さとのそら	131	142	29
夏黄金	3	6	1
計	488	489	100

※JA 全農福島の出荷契約ベースの面積

表 4 単収の推移 (単位 : kg/10a)

麦種	品種	R4年産	R5年産	R6年産	R7年産
小麦	きぬあずま	185	379	355	272
	ゆきちから	128	163	190	146
	さとのそら	355	232	350	326
	夏黄金	-	-	202	109
大麦		68	389	155	379

※単収は JA 全農福島の出荷契約数量より算出

表 5 単収の比較 (単位 : kg/10a)

麦種	区分	R4 年産	R5 年産	R6 年産
小麦	福島県	194	263	287
	全国平均	437	472	444
	全国比	44%	56%	65%
大麦	福島県	130	220	255
	全国平均	337	329	285
	全国比	39%	67%	84%

※農林水産統計より

表 6 農産物検査結果

麦種	等級	R4 年産	R5 年産	R6 年産	R6(全国)
小麦	1 等	8%	15%	29%	87%
	2 等	82%	80%	66%	6%
	規格外	11%	5%	5%	7%
大麦	1 等	4%	22%	46%	62%
	2 等	96%	77%	52%	15%
	規格外	4%	1%	2%	22%

※麦類の農産物検査結果 (農林水産省) より

表 7 麦品種別契約実績 (単位：トン)

販売先	品種	R4年産	R5年産	R6年産	R7年産
A製粉	きぬあずま	339	533	456	356
	ゆきちから	268	345	405	367
	さとのそら	117	107	231	215
	その他	11	4	0	2
	計	735	989	1,092	940
B製粉	きぬあずま	0	0	0	0
	さとのそら	0	100	161	158
	計	0	100	161	158
C精麦	大麦	11	16	2	2
合計		747	1,105	1,256	1,100

※JA 全農福島の出荷契約ベースの面積

表 8 小麦の品種別作付計画 (単位：ha)

品種	R9年産 (計画)	R10年産 (計画)	R11年産 (計画)	R12年産 (計画)
きぬあずま	0	0	0	0
ゆきちから	244	144	67	0
さとのそら	338	379	420	456
夏黄金	21	84	124	158
計	603	607	611	614

※R9～12年産の計画面積は、各地域の面積推移を参考に作成